

## 第212回 「元気に百歳」クラブ「道草」句会は通信句会になりました

先月にも増して改善したリアル句会を実現するべく準備していましたが、新型コロナウイルス第七波「感染拡大現象」は、句会の開催を許してくれませんでした。日次の感染症陽性者数が、過去最多の日が続きます。ただ、ワクチン予防接種、特に高齢者の予防接種者は殆どの人が、4回目の接種を終えました。その分、以前に比べて恐怖感は少なくなっていると思われませんが、油断大敵です。気を付けましょう。

いずれにしても新橋ばる一んでの三回目の新句会は中止になり、一段と大きな声で句を読むことは出来なくなりました。次へのお楽しみにしておきましょう。現実には、第二十一回目の通信句会に切り換えての開催になり、8月は投句一覧表の作成から選句結果のまとめまで、ご担当をいただいた森田多佳さんにはお世話になりました。多佳さん、有難うございました。今月の句会に投句されたのは次の方々です。

◎ 投句に参加した方々。

芦川創風さん、板倉歌多音さん、井上蒼樹さん、太田一光さん、奥田和感さん、  
金田月草さん、木村栄女さん、高瀬荻女さん、辻柴楽さん、手嶋錦流さん、  
中島懂岳さん、原晶如さん、船戸清助さん、本間傘吉さん、森田多佳さん、  
芦尾白然（16名）。

（辻柴楽さんは投句には参加されましたが、体調不良で選句は不参加です）

皆さんが提示を受けた兼題から佳句をひねり出し、選ばれて優秀句に、さらに天賞を獲得された句と最多得票賞（☆印）に至る称賛を獲得された今月の句は、下述の通りです。どうぞご高覧下さい。

兼題1「七夕」

◎『笹担ぐおばばと嫁の星まつり』	多佳	天1
◎『星今宵一人みあげる橋真中』	晶如	☆6

兼題2「花野」

◎『一斉に風にひれ伏す花野かな』	和感	天3
◎『千疊の花野揺らして昏るる色』	晶如	天2☆8
◎『リフト乗り花野見おろし頬に風』	柴楽	天1

兼題3「当季雑詠」

◎『ひとところ明るき夜空踊りの灯』	晶如	天2☆9
◎『赤とんぼ今日も散歩の連れとなり』	傘吉	天2
◎『稲妻を背にして正座する男』	多佳	天2
◎『うす紅の木槿の傍の立ち話』	白然	天1

兼題1では、多佳さんの句「笹担ぐおばばと嫁の星まつり」が、天賞一つを獲得しました。年に一度の七夕まつり、無病息災、無事を祈って嫁と姑が一緒になって祭りを盛り上げる温かい日常が見えてくるようです。皆さん、コロナウイルスなどに負けないで、今年もお元気でお過ごし下さい。次に天賞は付きませんでした。晶如さんの句「星今宵一人みあげる橋真中」が、最多得票賞（☆印）を獲得しました。中七の「一人みあげる」に全てが語られているように思われます。

兼題2では、和感さんの句「一斉に風にひれ伏す花野かな」が、天賞三つを獲得しました。花野を吹く風、草花はあたかもひれ伏すように、茎を倒してしまう。そのか弱さ、優しさ、その自然の姿に哀しさすら感じたのではないのでしょうか。読者の共感が集まり、天

賞に輝きました。次に晶如さんの句「千畳の花野揺らして昏るる色」が、天賞二つと最多得票賞（☆印）を獲得しました。上五、中七で「千畳の花野揺らして」と、読者に景の壮大さを印象づけます。そして作者は暮れていくまで、その花野が揺れる景に見入っていたことを、下五の「昏るる色」に預けました。哀愁を帯びた景を、言葉を使わずに読者に印象づけました。「不言の言」、お見事でした。

次に柴楽さんの句「リフト乗り花野見おろし頬に風」が、天賞一つを獲得しました。この句の上五「リフト乗り」は、説明的になっている一節で、俳句では好まれない手法ですが、眼下に見える花野の美しさと頬に感じる風の爽快感は、読者に見事に伝わって参ります。一票はこの爽快感に投げられたのでしょうか。

席題3では、晶如さんの句「ひとところ明るき夜空踊りの灯」が、天賞二つと最多得票賞（☆印）を獲得しました。8月句会の晶如さんは、三句とも最多得票賞（☆印）を獲得され、そのうち天賞二つの句が二句あり絶好調でした。

この兼題3の天賞二つの句の推挙コメントに「ひとところに集まる灯の明るさが、踊りの灯であることに、懐かしい共感を覚えた」と、書かれています。全国の秋の踊りである「郡上踊り」「風の盆」の持つ、秋の哀愁の漂う踊りには、えも言われぬ感情に襲われます。「秋ですね」としか言いようがありません。

次に傘吉さんの句「赤とんぼ今日も散歩の連れとなり」が、天賞二つを獲得しました。この句の中七、下五「今日も散歩の連れとなり」が、軽く柔らかい言葉のタッチで対応していて、赤とんぼに親しみが湧いてきます。特に「散歩の連れ」という軽さは秀逸ではないでしょうか。天賞推挙のコメントに「多くの赤とんぼがまとわりついてくるように飛んでくる状況」との表現がありましたが、これも好いですね。次に多佳さんの句「稲妻を背にして正座する男」も、天賞二つを獲得しました。天賞推挙のコメントに、「正座する男に物語性あって、まるで映画の一シーンを見ているよう」とありましたが、本当だと思えます。次に自然の句「うす紅の木槿の傍の立ち話」が、天賞一つを頂戴しました。「どうということのない情景ですが、リズム感が良く、長閑やかな日常が表現されている」との天賞推挙のコメントがありました。有難うございます。

8月はコロナウイルス感染の拡大、熱中症の用心、サル痘の蔓延不安、台風の来襲など、心配すればするほど、キリのない不安のはびこる世情です。どうぞ日ごろの用心は怠ることなく、静かに暮らしていきましょう。それにしても暑い毎日です。甲子園の高校野球でも観戦して、若い日の元気を思い起こしましょう。まもなく9月の句会スケジュールが発表されます。

自然記